

---

## 特集 生活の質 (QOL : Quality of life) を高める医療最前線 —難治な病気に光明が見えた!—

---

### 【巻頭言】

久保 宜 明 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部感覚運動系病態医学講座皮膚科学分野)

坂 下 直 実 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部器官病態修復医学講座人体病理学分野)

最近の医学の進歩はめざましく、数年前まで難治だった病気に対して数々の画期的な治療法が開発されつつある。第246回徳島医学会学術集会では、さまざまな領域での医療の進歩を広く市民の方に知っていただき、難治な病気をもつ患者さんやご家族のお気持ちを少しでも楽にしたいという主旨のもと、公開シンポジウムとして生活の質 (QOL : Quality of life) を高める医療最前線—難治な病気に光明が見えた!—を企画した。7人のエキスパートの先生方からそれぞれの領域の医療最前線のお話を伺うことができた。

まずキックオフとして、担当教室の皮膚科石上が乾癬の治療について述べた。乾癬は一般にあまり知られていない皮膚病だが患者さんは多く、全身に厚い鱗屑を付着する紅斑が再燃を繰り返し、QOLを著しく下げることが知られている。時に関節リウマチに類似した関節症状を伴う。従来の治療法では難治だったが、2、3年前に保険適応となったTNF- $\alpha$ またはIL-12/23p40を標的とする生物学的製剤によって皮疹や関節痛が劇的に改善することを示した。呼吸器・膠原病内科の岸先生にはリウマチの治療についてお話いただいた。関節リウマチは軟骨、骨の破壊をきたす全身性の炎症性疾患であり、以前は弱い薬から徐々に強い薬への変更・追加が主流だったが、早期にメトトレキサートや生物学的製剤を使用することによって、寛解、関節破壊の防止、機能障害の阻止という目標を達成できることをお示しいただいた。帝京大学溝口病院整形外科の西良先生には腰痛の治療についてお話いただいた。年代別の腰痛の特徴を解説し、こどもの腰痛には柔軟性の獲得目的にジャックナイフストレッチが有用であり啓蒙活動を行っていること、青壮年の腰痛の代表的な疾患である椎間板ヘルニアに対する新しい経皮的内視鏡手術、高齢者の腰痛の代表的な疾患で

ある圧迫骨折に対するバルーン後弯矯正術など、腰痛治療の最前線をお示しいただいた。

産科婦人科の桑原先生には、不妊治療、生殖補助療法についてお話いただいた。従来多胎妊娠が体外受精の問題点だったが、受精卵を胎盤胞といわれる発育段階まで培養する技術や急速ガラス化胎盤胞凍結法によって多胎妊娠体率が4%まで減少していることなど体外受精が進歩している一方で、晩婚化による卵巣・卵子の老化が最近大きな問題として注目されていることを紹介いただいた。心臓血管病態医学分野の鳥袋先生には、異所性脂肪と2型糖尿病についてお話いただいた。肥満症では脂肪細胞以外の臓器における脂肪蓄積が問題であり、インスリン抵抗性・分泌障害をもたらし、心臓血管病のリスクとなること、心臓血管病の予防と治療には心臓血管代謝リスクをターゲットとして制御することの重要性をお示しいただいた。熊本医療センター臨床研究部の武本先生には、成人T細胞性白血病・リンパ腫(ATL)の治療についてお話いただいた。ATLの病態には、サイトカイン受容体下流のシグナル伝達に関わるJak/Stat分子の恒常的な活性化やsCD30およびsIL-2Rの血清濃度上昇がかかわっていること、最新の治療として化学療法とその後の造血幹細胞移植方法や抗CCR4抗体療法などを示しいただいた。

最後に徳島赤十字病院血管内治療科の佐藤先生には、脳血管内治療の最前線についてお話いただいた。くも膜下出血の原因である脳動脈瘤破裂の予防として、大腿動脈から挿入したマイクロカテーテルからコイルを挿入することによって脳動脈瘤を治療する血管内手術を動画で紹介いただいた。従来の開頭ネッククリッピング術に比較して成績も良好であり、まさに生活の質を高める医療の最前線のお話だった。